



未来へ

埼玉県立川越高等学校
進路通信「未来へ」1号
令和2年6月1日
発行 進路指導部

◎ 過去3年間の主要大学入試結果 (6/1現在)

国公立大学	2020春	2019春	2018春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
北海道大	12 (5)	10 (4)	11 (5)
東北大	21 (13)	10 (6)	12 (6)
筑波大	11 (9)	14 (11)	5 (3)
埼玉大	33 (24)	23 (18)	24 (20)
千葉大	11 (7)	6 (3)	7 (5)
東京大	7 (4)	3	1
東京工業大	5 (3)	7 (5)	4 (4)
一橋大	5 (5)	11 (7)	3
東京農工大	14 (11)	9 (5)	14 (11)
東京学芸大	3 (1)	4 (3)	5 (4)
東京芸術大	2	1 (1)	1
東京外国語大	2 (2)	5 (3)	4 (3)
東京海洋大	2 (2)	2 (1)	2 (1)
電気通信大	2 (2)	2 (1)	3 (1)
横浜国立大	10 (7)	12 (4)	1
名古屋大	2 (1)	2 (1)	1
神戸大	1	3	
京都大		1	6 (5)
大阪大	2	1	1
九州大		2 (2)	1
東京都立大	5 (3)	8 (5)	10 (8)
その他の大学	33 (16)	38 (13)	24 (13)
合計	183 (115)	175 (94)	140 (89)

私立大学	2020春	2019春	2018春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
早稲田大	84 (58)	92 (60)	79 (40)
慶應義塾大	30 (14)	36 (13)	25 (14)
上智大	12 (11)	11 (3)	19 (3)
東京理科大	87 (50)	93 (58)	77 (39)
明治大	97 (61)	146 (91)	122 (79)
青山学院大	14 (10)	11 (6)	13 (11)
立教大	54 (38)	51 (30)	49 (26)
中央大	69 (52)	72 (27)	70 (50)
法政大	61 (31)	85 (38)	84 (53)
学習院大	16 (11)	13 (4)	14 (11)
芝浦工業大	65 (41)	66 (36)	63 (43)
私立医学部(医学科)	19 (2)	16	6
その他の大学	324 (177)	348 (150)	291 (143)
合計	913 (554)	1024 (516)	906 (512)

◎ 東京大内訳

文科Ⅲ類	2	(1)
理科Ⅰ類	4	(2)
理科Ⅱ類	1	(1)
計	7	(4)

◎ 国公立医学部内訳

旭川医大	1	
弘前大	1	
山形大	1	(1)
群馬大	3	(2)
千葉大	1	(1)
富山大	1	(1)
福井大	1	(1)
信州大	1	
長崎大	1	
鹿児島大	1	
計	12	(6)

	2020春	2019春	2018春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
国公立難関大※	66 (37)	54 (26)	44 (20)
国公立医学部(医学科)	12 (6)	7 (1)	4

※ 旧帝大+東工大・一橋大・国公立医学部



昨年度の入試全体を振り返って

大学入試センター試験最後の年ということで、次年度からの大学入学共通テストを意識した問題も散見され、全体の平均点は前年よりも下がる結果となりました。また、次年度からの入試制度の変更を見据えて浪人を嫌がる傾向（安全志向）も強まり、難関大も志望指数は軒並み前年よりも下がる結果となりました。

安全志向が強まる傾向は、共通テスト初年度の今年も続くと思われています。こうした状況では特に、難関大の合格ライン上にいる受験生が減少しますので、逃げずに勝負をした方が相対的に有利になります。動向に流されずに、志望を下げず学力を積み重ねていくことが大切です。全体の志望傾向としては、近年の大卒の就職状況が好調なことを受け、昨年度も文高理低の傾向が続きました。ただし陰りも見えており、今回のコロナウイルスの影響で不況になっていけば、理高文低になる可能性は十分にあります。1年生はこれから文理選択があり、2年生でも文系理系の選択にまだ迷っている人も多いと思いますが、全体の傾向は参考程度にして、自分自身の将来就きたい職業や、受験科目となる教科・科目の適性を十分に踏まえた上で、自分に合った選択をしてください。

本校の入試結果を振り返って

センター試験の結果が良かったことも追い風となり、国公立大学については、ここ20年で最多となった昨年をさらに上回る合格者数となりました。特に現役生は、初めて合格者が100名を超えました。ただ人数が増えただけではなく、東京大学や東北大学といった難関国公立大や、国公立大医学部医学科の合格者が増えており、質と量を兼ね備えたバランスの良い入試結果となりました。また、後期で現浪合わせて40名近くが合格しており、最後まで諦めずに粘り強く戦った生徒が多かったのも特筆すべき特徴です。今年度は、大学入学共通テスト初年度ということもあり、引き続き安全志向で志望を下げる受験生が全国的に増加することが予想されます。3年生の皆さんは、そのような時だからこそぜひ、最後まで志望を貫いてください。最後に合否を分けるのは、倍率ではなく学力です。その学力は、学習した時間と内容に比例して必ず伸びます。難関大を志望している人は特に、早期からの学習の積み重ねを心がけてください。勝負は入学時から始まっています。2・3年生はもちろんのこと、1年生も日々の学習を積み重ねていって下さい。

ここ数年の合格した先輩たちを見ていると、学習を積み重ねるのはもちろんのこと、生活面もしっかりとした生徒が多いです。これは受験生全般に言えることですが、受験勉強で疲れている中でも、遅刻や欠席をせずに、しっかり学校に来てコツコツ学習を積み重ねられる生徒は、必ず伸びます。また、志望を最後まで貫いた先輩も、多くが合格を勝ち取りました。これも受験生全般に言えることですが、志望を下げずに頑張った生徒は必ず伸びます。生活を律し、目標をしっかりと定め、学習を重ねてください。

まずは学習習慣の確立を！！<今年も！！>

毎年のこの号に載せていますが、今年もまた改めて載せます。日々の学習の参考にしてください。

(1) 毎日の絶対的な学習時間を確保する

部活や行事などで忙しい毎日ですが、日々の学習なしでは学力向上は望めません。すき間時間（電車などの通学時間、学校での休み時間など）を活用するのはもちろんですが、特に数学や理科の問題にじっくり取り組むために、まとまった時間（最低でも1時間以上）を作り出してください。食事の前、寝る前、朝早くなど、生活スタイルによってタイミングは違うと思いますが、毎日固定すると続けやすくなります。毎日の学習時間の総合計としては、平日：(学年+1)時間、休日：(学年+3)時間以上を目指してください（難関大志望者は平日：(学年+2)時間、休日：(学年+4)時間以上）。余談ですが、過去；東大と医学部に合格した先輩は、それぞれ夏休みに合計500時間（1日平均10時間以上）やっていました。時間をしっかりかけた学習をしましょう。あと、スマホは1日30分まで！！<某予備校の調査では、現役合格者の1日のスマホ平均使用時間は、ゲーム0分、ラインなどの連絡・通話30分、でした！！>

(2) 目標を高く持つ

大学入試で大切なのは、“行きたい大学”を高く掲げることです。“東大とか自分が目指しているのかな…”と言う人もたまにいますが、川越高校に通っている以上、どの大学も目指す資格があります。自分がどこまで伸びるのかにチャレンジするのも、大学受験の大きな意義のひとつです（川越高校生は目標とした大学の分だけ伸びます）。“この大学を志望しているんだ！！”と臆せずに言ってみてください。同じような仲間がきっといるはずです。そういう仲間をお互いに見つけて、時には励ましあいながら切磋琢磨してください。我々も皆さんの志望校への頑張りを全力でサポートします。